

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792730038		
法人名	特定非営利活動法人 EOS		
事業所名	グループホーム第2あけぼの		
所在地	福島県大沼郡会津美里町下堀字中川46		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php?action=kouhyou_detail

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成25年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 利用者のかたの生活歴・能力を把握し、ただ一日を過ごすのではなくご本人にとって有意義で楽しい一日になるよう支援している。
2. 利用者の状況に合わせた声掛けをしている。
3. 地域に貢献する。
4. 残存機能低下を防ぐよう努力する。
5. ノムダス表を使用し利用者の体調管理を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1 開設1年目の事業所であるが、同敷地内に開設後6年目を迎えた同法人のグループホームが併設されており、2つの事業所は連携を図りながら円滑な事業運営が図られている。また、応援体制も整備されており、利用者、家族はじめ職員間の安心にも繋がっている。運営や行事等も合同で実施しており、利用者間の交流も日常的に行なわれている。
- 2 法人及び管理者は職員の労働環境づくりに努めており、職員の働く意欲の向上につながっている。資格取得に対する支援もあり、取得後は待遇に反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「癒しと安心」を基本理念に掲げ家庭的な環境の中でその人らしく生活できるように、地域の方々や行政、病院などの協力の下生活をしている。	理念は地域密着型サービスの意義を踏まえたものとなっており、利用者が地域の中でその人らしく生活することを目指している。ミーティング等で全職員が理念を確認し、共有認識をもって日々のサービスに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と一緒に避難訓練を行ったり、町民運動会に参加、応援に出かけている。町内の方がボランティアで習字や水彩画、語り部など定期的に来て頂いている。秋祭りなどのイベントの際には応援に駆けつけて下さっている。	地域の行事へは積極的に参加しており、ボランティア(語り部・歌謡、大正琴等)も多く受入ている。特に毎週1回の作業療法(習字・塗り絵等)は上達が現れてきており利用者の楽しみとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われるイベント(運動会、文化祭、投票など)についてはできるだけ参加するようにしている。入居者が外に出る機会を増やし、地域の方々に認知症の人の理解を深めてもらい、支援していただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	開所から5回開催。事業所の取組みや入居状況などの説明を行い、困難事例については相談、アドバイスをもらい解決に向けて話し合い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は併設の関連事業所と合同で定期的に開催されている。委員は各分野から選任され、委員からの提言も多く事業所運営に反映されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例、疑問等があった場合はすぐに連絡を取り、指導、アドバイスを受けるようにしている。	町職員は運営推進委員として毎回出席しており、事業所の状況や利用者の課題などついて常に情報交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては管理者を含め全職員に周知徹底し、必要時にはカンファレンスを行い拘束しないケアの方法を検討している。入居者の安全に関わるような事例においては行政の担当者に相談し、アドバイスを受けている。	「身体拘束をしないケア」については研修会等で周知を図り全職員が共有して日々のサービスに当たっている。また、虐待防止の徹底にも努めている。日中玄関の施錠はなく職員の見守りで対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修に職員全員が参加できるように配慮し、そういう事例が起こりそうな時には管理者を含め全職員で検討している。排泄時や入浴時に観察を行い防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に成年後見人制度を利用している方が居り、改めて制度について学ぶことができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をかけて行っている。双方で紙面を見ながら補足、説明を行い、納得していただいた後契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際や電話で近況を尋ねられた時は利用者の状況を説明したり、施設に対しての意見、要望等がないかどうかお尋ねしている。介護保険の更新やモニタリングの際も、意見、要望をお聞きし、対応している。	家族の面会時等を通して意向や希望を聞き取るよう努めている。また、家族アンケートも実施しており、きめ細かに家族の意見を把握しており、家族の意向や希望に沿うサービスは家族の安心にもつながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	目安箱を設置しているが現在まで利用がない。職員会議等で尋ねても発言する職員はあまりいない。年末に意見、要望を紙面にて提出してもらい、それについて理事長より返答をもらっている。	月例の合同「職員会議」及び「ユニット会議」等で職員の意見を聞く機会を設けている。さらに職員各自の「自己評価表」を通して意見を把握しており、事業所運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の家族状況や身体状況も考慮し、常に無理なく仕事ができるように配慮している。問題点は職員全員で意見を出し合い改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に無理なく参加できるように勤務を考えたり職員それぞれがスキルアップするための資格取得についても考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者の親睦や職員同士の交流を深めるため町内の3グループホームの交流会を毎年開催している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居からしばらくの間はまめに声かけ、様子観察をする。本人の言葉に耳を傾け生活歴やADL、家族関係などを考慮しているいろいろな角度から本人の困り事や要望を探り、ここでの生活が安心できると思えるようなケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みの時や実調の時、契約の時など家族の話に耳を傾け困り事や心配な事などを良く聞いて、入居者の状況を説明したり、サービスに対しての意見や要望をお聞きして少しでも安心していただけるように対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の困っている事を聞いて優先順位やできる事、できない事を見極め、福祉用具や道具の利用なども含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には尊厳を持って接し、人生の先輩としていろいろな知恵を借り、助け合いながら一緒に生活していける関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には入居者の様子をお伝えし、在宅時の様子などをお伺いするなどして一緒に利用者を支えていく関係が築いていけるように対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会があった時には催し物のご案内をしたり、またいつでもお越しいただけるようお声をかけている。	友人等の訪問があり、面会時には利用者とゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。また、事業所の行事等の案内をしており、なじみの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の出身地、性格、生活環境などを考慮してホールでの席を考えたり、一日を過ごす場所も考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも面会に行ったり、家族からの相談にのり、病院の受付を代行するときもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で本人が話す内容の中に生活に対する希望や思いがあると考えるので本人の話に良く耳を傾け、場面場面で話を聞いたり、表情や態度も良く観察するようにしている。職員からの聞き取りも行う。	利用時にこれまでの生活歴等を把握している。また、日常のふれあいの中で会話やしぐさから利用者の意向把握に努めている。意思表示が困難な場合は、家族から聞き取りをしており日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時の担当ケアマネから情報を得たり、家族から話を伺ったりする。家族と馴染みの関係を築くことにより本人の生活歴やサービスに至った経緯などをプライバシーに配慮しつつ聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを観察し、その都度声かけをしたり、表情や声の様子にも注意をはらうようにしている。職員の手伝いをお願いしたり、レクリエーションに参加を促したりして本人のできる事できない事を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日生活を共にしている職員からの聞き取りにより生活の中から課題を見つけ家族からの情報や今までのケアに対しての意見や要望なども伺い、主治医からの情報なども視野に入れ管理者を含め話し合いながら介護計画を作成している。	利用者、家族の意向を踏まえ、利用者の現状に即した介護計画を作成しており、定期的な個別記録をもとにモニタリングを行い、計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、業務日誌、バイタルチェック、ノムダス(排泄、水分、食事のチェック表)を常時記入し、必要に応じてカンファレンスを行い、申し送りノートを確認することにより介護内容に変更があった場合でも全職員が把握できるようにして介護計画にも反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりのその場その場のニーズを見極めその時その人に合ったサービスを提供できるように心がけている。ホームとしてもその都度状況を鑑み柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のボランティアと話し合い、利用者の方が楽しく続けられるように内容を検討し、実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの受診記録を作成し、受診のたびごとに記録している。必要時には家族に結果を報告し家族の考えなども医師に伝えるようにしている。医師や看護師との連携も密にとっている。	かかりつけ医の受診は家族同行を基本としているが利用者の状況によっては職員の同行もある。受診結果は「受診記録簿」を利用し家族と情報の共有している。さらに利用者個々の「事故・緊急時のチェック表」を作成しており、緊急受診時に医師に情報を提供できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は不在		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報やホームでの生活状況などを病院に提出し、時々面会に行き病棟の看護師に状態をお聞きしたりしている。退院時期や退院後のケアについてもケアワーカーなどと連絡を取り合い関係者との関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については家族と話し合いを設けているが、今現在支援には至っていない。	「看取りに関する指針」を作成しており、利用開始時に家族に十分説明し、理解を得ている。重度化した場合には再度家族の意向を把握し、医師の指示のもと柔軟に対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が消防署が実施している普通救命講習を受講している。入居者一人ひとりの急変時チェック控えを作成し急変の際慌てないで対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に備える設備については完備されており、避難場所、経路についても職員に周知している。ご近所の方にも参加していただき消防署の協力のもと避難訓練を実施している。	消防署立会いの防災訓練を実施しており、事業所独自でも通報訓練や伝達訓練等を実施している。毎日夜勤者は緊急自動通報システムの動作の確認をしている。非常用品(水・粥・コンロ・貯水タンク・衛生品)等は備蓄している。近隣住民が緊急連絡員に登録しており非常時には協力を得られる体制が構築されている。	緊急時には全職員が利用者を安全に避難誘導できるように訓練を重ねてほしい。訓練には全職員が参加できるよう計画されることが望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、入浴や排泄、着替え等の介助の際には本人のプライドやプライバシーを傷つけないように配慮し、言葉使いや態度にも十分注意をする。	職員と利用者は互いに信頼関係のもと、日常の生活の支援に努めている。利用者一人ひとりの思いや状態にそった言葉かけをし、利用者の人格を尊重した対応を全職員が心にかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との関わりの中で職員ばかりが話すのではなく問いかけをするなどしてできるだけ本人の言葉を引き出すように心にかけている。本人が迷っているような時は具体的な例を挙げるなどして自己決定ができるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中である程度の時間の流れはあるが、その時々の方の状態を考慮し、無理強いせず話を伺いながら支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等を準備する時はある程度本人の希望を伺い、助言をしつつその人らしい身だしなみやおしゃれができるように配慮し、職員はその方がどのような身だしなみをしているのか気づく気持ちをもつようにする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜の下ごしらえや配膳の準備などできる事は無理にならないように手伝ってもらい、食事はみんなで会話をしながら楽しい時間が過ごせるように支援している。	利用者と共に全職員と一緒に食卓を囲んでおり、会話をしながら食事を楽しんでいる。食事の準備や後片付け等も利用者が職員と共に楽しみながら行なっている。献立は利用者の希望を聞きながら毎日職員が交代で作成しており、週1回麺の日とパンの日を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ノムダス表(食事、水分摂取量や排泄の状況)を使用して一日の状況が個人別に一目で観察できるように記録して、対応できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと就寝前の義歯洗浄、除菌を毎日行っている。義歯固定剤を使用している方の支援もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ノムダス表を使用してその方の排泄パターンや排便の習慣などを把握して出だけ自立して排泄ができるように声かけや一部介助を行っている。	「ノムダス表(摂食と排泄)」を活用し利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレでの自然排泄を基本に誘導している。オムツやパット利用を適宜使い分け、自然排泄の誘導をすることで改善された利用者もいる。トイレにシャワーが設置されており、利用者の清潔保持に役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ノムダス表からその方の水分摂取量や食事の摂取量などを確認し、代替えの飲み物を追加したり乳酸飲料(ヤクルト)を個人の希望により購入して提供している。繊維のある食物をおかずにとりいれたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴日を設けている。已むおえず曜日は決めさせてもらっているが個々の事情(体調や受診)により曜日の変更は柔軟に行っている。中には職員(男)によって拒否をされる事があるので職員の勤務を考慮している	利用者の希望により、入浴支援をしている。入浴拒否者には担当者を代えたり入浴剤の希望を聞き、気分転換を図りながら誘導している。入浴できない利用者には足湯や清拭で対応している。季節風呂(ゆず湯・菖蒲湯等)も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は本人に合わせている。午睡の際も本人の希望で寝ずにホールで過ごされる方もおられるが、できるだけ短時間でも休息をとられるように声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表、チェック表を置き、その日その時間に服用する薬に日付と名前を記入し、誤薬や飲み忘れがないように確認し、入居者の状態の変化を見逃さず、変化があればすぐに受診するよう心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や特技等を把握し、能力を活かした支援を行っている。買物に同行したり、時にはドライブを兼ねて隣の市のスーパーまで足を延ばし好きなものを買って来るなど気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方達の協力はあまりないが、行事の計画を立て、年に何度か外出の機会を設けている。家族と一緒に自宅に帰って泊まったり、兄弟の家に泊まりに行ったりされている。	事業所では外出の機会(花見・あやめ見学・秋の遠足・記念館見学・ドライブ)を設け、楽しんでいる。好天時には散歩を日課としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが所持していただいている。しまい忘れなどで不安になったり「盗られた」と訴えられる時があるので金額の確認、置き場所の確認は時々させていただいている。買い物の際は自分で支払いされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で携帯電話を持参している方もいる。本人が希望すれば家族に電話をしたり、家族の方に手紙を出して頂けるようお願いしている。暑中見舞いや年賀状を家族に出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるように玄関やホールには季節の花や置物を飾ったり、廊下には行事の写真や入居者の作品を飾ったりしている。温度によってエアコンやカーテンで調節をしている。	共用空間は広くテーブルやソファが配置され量のコーナーにコタツもあり、利用者が思い思いの場所でテレビや趣味等を楽しんでいる。製作された作品も展示され明るいスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時間帯によっては思い思いに好きな所で過ごして頂けるようにその都度職員が声かけをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	入居の際ベッドや家具の配置については本人の意向を聞いて置いているが、馴染みの物については入居の際本人や家族に十分説明をしているが持ち込みされる方は少ない。生活される中で必要になってきた時は本人と家族と相談しながら行っている。	居室には電動ベットと小筆筒とエアコン・換気扇が設置されている。利用者はテレビや使い慣れた家具を持ち込んでおり、家族の写真や手作りの作品が飾られ、落ち着いた生活ができるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からなくなる方については本人の目線に合わせた職員手作りのネームプレートを貼っている。覚えて必要が無くなった時は本人に聞いて撤去する場合もある。		